

都心の現状と活性化の視点等について

○民間企業へのヒアリングや第 1 回都心活性化に関する懇談会での意見等から、現状分析の視点(想定する課題)を設定した上で現状を整理し、都心活性化の視点(案)とキーワード(案)から、取組の視点(案)を整理した。

項目	現状分析の視点 (想定する課題)	現状	都心活性化の視点(案) キーワード(案)	取組の視点(案)
業務	○近年の日本経済の低成長下における、他都市への事業所統合等が影響し、業務機能が低下しているのではないか。	○ここ数年は、オフィスの新規供給(延床面積 1,000 坪以上)がされていない。 ○従業者数は横ばいであるが、事業所数が減少している。 ○更新時期を迎える建物が多いものの、建物更新はあまり行われていない。	国内外から人を呼び込む 働きやすい 楽しめる 住みやすい 行きやすい 移動しやすい 憩える	●新たなビジネスや雇用の創出 ●オフィスの新規供給
商業	○周辺部への大規模商業施設の立地等により、都心の商業施設の吸引力が低下しているのではないか。	○平成 19 年までは都心における売場面積及び商品販売額が減少している。平成 19 年と平成 26 年の全市比較においても売場面積と商品販売額が減少している。 ○周辺部への大規模商業施設の立地等により、紙屋町周辺、八丁堀周辺及び広島駅周辺の商圈利用が減少したが、近年は横ばいである。		●広域から集客できるような魅力と特徴を持つ商業機能の充実・強化 ●商業機能の集積を生かした商業施設の連携の強化
観光・交流	○観光客は増えているが、滞在時間は短いのではないか。	○観光客数及び宿泊率が増加している。 ○外国人に人気の観光スポットがあり、欧米豪からの旅行者を中心とした外国人観光客が増加している。 ○観光資源は数多くあるが、回遊されていない。		●観光客の受入環境の充実・強化 ●アジアからの旅行者の誘客強化 ●観光資源の P R ●回遊性の向上
居住	○マンション建設により、都心の居住人口が変動しているのではないか。	○都心の居住人口が増加している一方、空き家率も増加している。 ○市全体に比べ、年少人口の割合が少ない一方、外国人居住者が多い。 ○都心の住宅供給が計画されており、今後も都心の人口が増加することが予想される。		●商業・業務機能と居住機能の共存 ●利便性を生かした都心居住の推進 ●全ての人が暮らしやすい居住環境づくり
道路・交通	○自動車の利用が多く、歩行者が歩きやすい空間が少ないのではないか。	○都心は既存の公共交通機関によってカバーされている。 ○都心へのアクセスは公共交通機関の利用が多く、徒歩や二輪の利用も増えている。 ○歩行空間における歩行者の安全や休憩施設について改善を望む意見が多い。		●公共交通機関の利用促進 ●駐輪場の整備や自転車走行空間の整備など自転車都市づくりの推進 ●安全で快適に回遊できる歩行環境の形成
環境・景観	○まち中に憩いの場が少なく、都心の都市環境が悪化しているのではないか。	○広島市ならではの水と緑の空間づくりや都市景観づくりが進んでいる。 ○大規模な公園はあるが、休憩施設を望む声(前掲)がある。		●憩いの空間となるオープンスペースの充実 ●水と緑の空間づくりや美しく品のある都市景観づくりの推進
安全・安心	○築年数が長く、更新が必要な建物が多いのではないか。 ○犯罪件数等、安全・安心に関する都心特有の問題があるのではないか。	○築年数の長い建物が多く、木造建物の多い地域も見受けられる。 ○犯罪認知件数が減少している。 ○地域コミュニティへの参加率が低下している。		●建物更新(建替えや改修) ●地域コミュニティへの参加促進
地域のまちづくり	○団体の活動エリアが空白となっている地域が存在するのではないか。	○様々な団体が活動を行っているが、紙屋町・八丁堀地区と広島駅周辺地区をつなぐ視点での取組が少ないと思われる。		●紙屋町・八丁堀地区と広島駅周辺地区をつなぐ視点のまちづくり ●都心の魅力向上につなげる各団体の連携強化